



「母校存続の危機的状況に同窓生の力を貸して下さい」

同窓会は、北星余市高校の発展を援助し、会員の修養研修並び会員相互の親睦を図る目的を持って、第1期生が卒業した後、1969年（昭和44年）1月に設立されました。2016年（平成28年）1月には満47年を迎え、卒業生は7,500名（連絡先が判明しているのは4,000名弱）を越える規模となり、三年後には50周年の区切りを迎える組織となっています。

さて、同窓会の母体であります北星余市高校は、以前から同窓会誌「Shiripaの星」でお伝えしてきたとおり、崇高な教育理念と現場実践により、多くの卒業生の社会で生きる力を養い、仲間とともに自分の生きる道を探す支えとなってきたことは周知の事実です。

しかし、少子化と長引く国内経済の低迷、教育環境の多様化などにより、ここ数年は新入生に転編入生を加えても60～70名を切る状況が続き、本年は遂に新入生が42名という状況に至りました。

ただ、学校の存続が危ぶまれ始めたのは皆様もご存じのとおり、不登校生徒などの受け入れを始めた20年程前からの事であり、危機感を持ちながらこれまでも毎年継続して教職員を中心に、現役PTA、PTAOB、同窓会、教育関係者などの協力連携のもと、北星余市高校の教育を広める努力を精力的に行い生徒募集に繋げてきておりました。

また、そんな努力を北星学園本部も一定の理解を示してくれていたため、多少の赤字であれば学園全体で吸収し北星余市の教育を残すという教育的配慮を継続してくれていました。



しかし、年々広がる赤字幅に北星学園内部からも学園全体の経営を圧迫する北星余市高校の存続に最後のイエローカードを示さざるを得ない状況に至ってしまったと聞き、そのイエローカードの内容が、「2016年4月90名以上の新入生確保、これが達成出来ない場合は2018年募集停止」という閉校へのシナリオでした。

既に待った無しの状況です。

今、我々同窓生に出来ることは、北星余市高校で行われているような教育を必要とする子ども達やその家族に正しい情報を伝え、一人でも多くの子ども達に北星余市での生き方を知って貰い学校に情報を繋げる事だと考えています。

どうか、ご自分のまわりで様々な事情を抱え、高校への進学を諦めかけている子どもや家族が居ましたら、北星余市高校へ電話（0135-23-2165・FAX0135-22-6097）をして相談してみるよう薦めてください。

母校存続の危機的状況に同窓生の力を貸して下さい。

2015年12月

北星学園余市高等学校同窓会役員一同





同窓生の皆様へ

北星学園余市高等学校長 安河内 敏



日ごろより、北星余市高校の教育活動をお支えくださりましてありがとうございます。また昨年の50周年記念事業におきましてもさまざまな形でご参加いただきありがとうございました。寄付も集まり、記念誌発行や生徒のための学習環境整備をおこなう事が出来ました。これからの社会が「高卒」だけでは（今や「大卒」も）安定した生活を送れなくなる格差社会が進んでいく事が予想されます。そうした社会にあって、しなやかに弾力性をもって生きていくためには、北星余市らしい力の付け方とはどのようなものか、卒業生の方たちに教えてもらおうべくアンケートや聞き取りにもご協力いただき、貴重な資料を得ることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

しかしながら、2015年度の入学生は42名でした。少子化や高卒資格取得の多様化などから、2010年より危機的であることをお伝えして参りましたが、いよいよ厳しくなってきました。この間、北星学園理事会では長らく余市高問題として話し合いが続いてまいりました。なんとか北星余市を存続させる事はできないかと模索がありましたが、2015年度の入試の結果を受けて、2016年度の入学生の数（新1年生）に90名という基準をもうけ、判断する事となりました。

90名という基準は2012年度でいちど判断することになっていましたが、学園も「なんとか存続」でここまで4年間、90名に達せずとも続けさせてくれました。

しかし、この後の少子化の進行や学園の財政の屋台骨である北星学園大学に関して2018年からの大きな高卒者減があることから、これ以上の高校存続のための財政拠出は難しいとの判断が一方ではあります。

これまでは不登校や非行の親の会等の団体とながりをもったり、地元余市でのイメージづくりのために学校を開放しイベントを行ってきたりとさまざまな取り組みをしてまいりましたが、時間と人手のかかる取り組みとなり、残された期間が短い中では出来る事もかぎられてきます。そこで情宣にしぼっての取り組みをおこなう事にしました。本校を知った媒体のほとんどがインターネットであることから、ホームページ・FacebookなどのSNSを使った広報、しかも文章はあまり読まれないのでメッセージ性の強い映像や卒業生やその保護者からのメッセージ（今、社会に出て北星余市はどうだったか）を載せることに注力することにしました。（新聞広告などは広く広報できるようでいて、一回にウン百万円かかって、しかも他の通信制等の広告に埋もれて、実際には対費用効果はないと考えています。記事は別ですが）

こうした広報を拡散したり（Facebook等でシェアしていただくなど）、使ったりすることで、本校の情報が「環境を変えたい」「孤立していて本当の友だちが欲しい」「いじめにあって人が怖い」「親元を離れた方がいいかも」「発達障がいを抱え進路に悩んでいる」「自分らしい学校生活を送りたい」…という層に届くようご協力をお願いいたします。またお知り合いで今まで通りに進路で困っている方がいましたら、強く本校を薦めていただけますようお願い申し上げます。

いつも母校の「危機」ばかりの報告で心苦しい限りですが、どうかご助力いただけますようお願いいたします。

以下のアドレスをご覧ください、ここに多くの方が訪れるように拡散くださいますよう、また投稿くださいますようお願いいたします。
『学校ホームページ』 <http://www.hokusei-y-h.ed.jp/>
『北星余市の存続を願う会フェイスブックページ』
<https://www.facebook.com/hokuseiyoichi.sonzoku/?pnref=story>

1年生 一般試験出願期間、試験日程、合格発表、入学手続き

出 願 期 間	2016年1月12日（火）～2月17日（水）
試 験 日 程	2016年2月19日（金）
合 格 発 表	2016年2月26日（金） 午後1時
入 学 手 続 き	2016年3月16日（水） 午後3時まで （道内生は3月18日（金） 午後3時まで）

○その他予約面接試験受付中。詳細は学校までお問い合わせ下さい。

Shiripaの星

Vol.15
2016年1月1日発行

【発行】北星学園余市高等学校同窓会「シリパの星」編集委員会
〒046-0003 余市郡余市町黒川町 19 丁目 2 番地 1
TEL(0135)23-2165 FAX(0135)22-6097
URL <http://www.hokusei-y-h.ed.jp/>

顧 問 塚原 治 編集委員 安藤 栄子（1期）
編 集 長 松村 悦子（15期） 本間美智子（5期）
副編集長 松浦 一法（12期） 馬場 希（12期）
平野満寿美（14期）